

琉球王国の運営体制

講師：高良倉吉（琉球大学名誉教授・文学博士）

1 古琉球時代の特徴

- * 首里王府、中央官人一間切・シマ制度
- * 文官と武官の融合—三番とヒキ、間切兵員
- * 久米村（唐営）、禅僧
- * 国営事業としてのアジアとの交流

2 近世琉球時代の特徴

- * 羽地朝秀（1617～1675年）の改革路線とその意図
- * 首里王府体制の強化、身分制度、間切・村制度
- * 文官による運営体制—朱子学、教養
- * 対外関係（清国、徳川日本）—東アジアの安定期
- * 産業振興の本格化

3 首里王府体制とは？

- * 中央執行機関としての首里王府（その拠点が首里城）
- * 国王—摂政—三司官（3名）—表十五人—座・方（行政部門）
- * 科試—採用試験
- * 官生と勤学、そして自主的な学習機会
- * 地方統治制度としての間切・村制度
- * 特別行政区としての「両先島」—蔵元・頭そして在番
- * 徹底した文書主義
- * 多言語—方言、首里語、大和言葉、候文、漢文・中国語、朝鮮語、英語

4 ペリ—艦隊来航時の緊急対応

5 むすび

- * 琉球処分（1879＝明治12年）後の現実—王国時代経験の「否定」
- * 伊波普猷「琉球処分は一種の奴隷解放也」（1914＝大正3年）
- 県内小規模離島対策の絶対的必要性—一定住をどう維持、確保できるか